

# 天理市

## 天理駅周辺地区まちづくり基本構想

平成28年3月

---

## 基本構想策定の背景

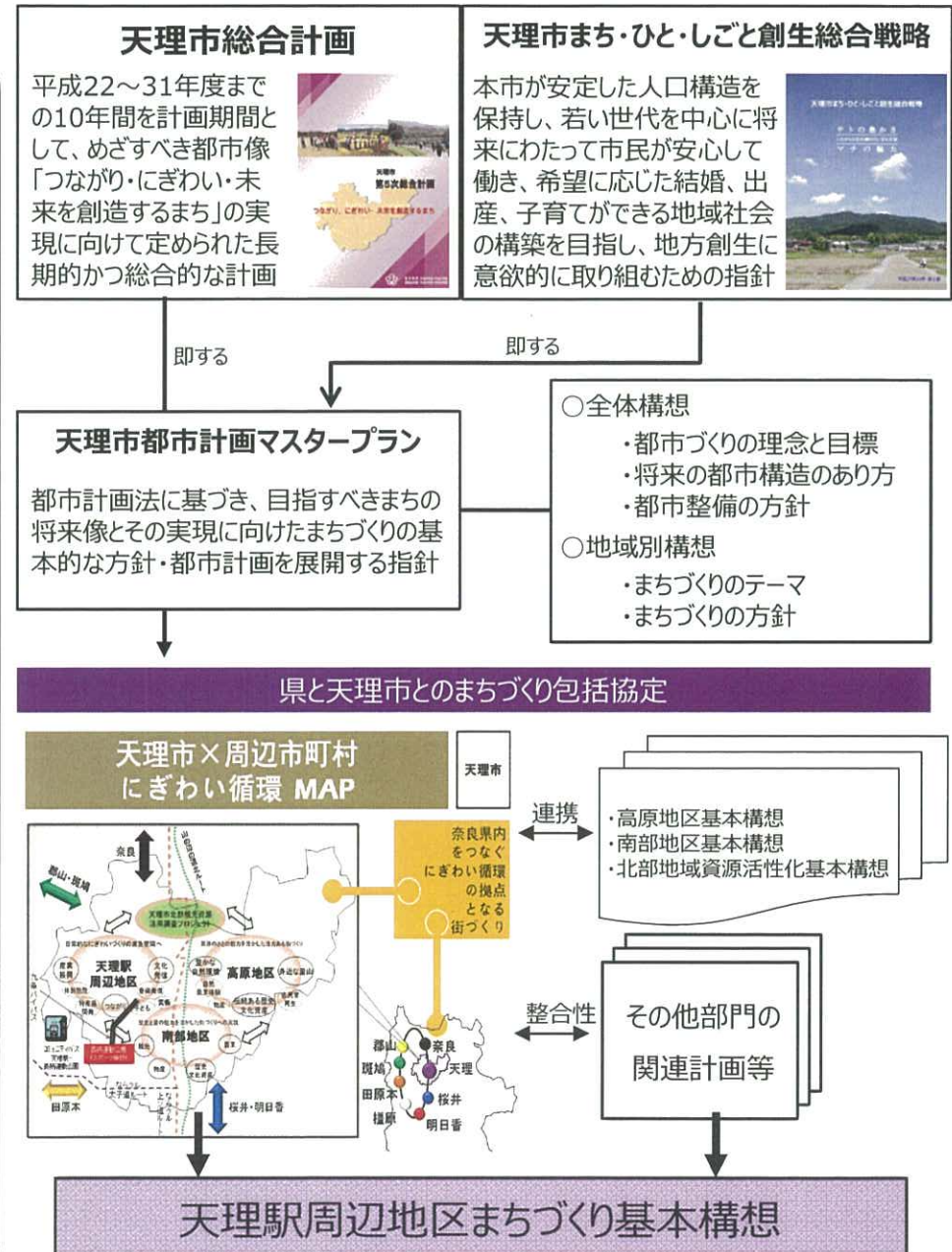
天理駅周辺地区は本市の市街地中心部に位置し、天理駅はJR桜井線と近鉄天理線が接し、バスの発着点で本市の玄関口であるとともに、乗客数1万人弱の交通結節点となっている。

天理駅前広場は、違法駐輪の是正や交通ターミナルの利便性を主目的に、平成15年に再整備された。しかし人口減少に伴い乗客数は減少傾向にあり、朝夕の通勤通学時間帯や天理教大祭、月次祭以外は、閑散とした活気のない状態であり、天理市の玄関口としての魅力や賑わいに欠けた空間となっている。

また、地域住民のニーズを把握するために行っている市民アンケートを見ても、憩いの場の整備や魅力ある観光の振興、商店街の活性化等について現状に不満と答えている人が多く、重要度の高い項目としてあげられており、市民の強い要望となっている。

これらのことを受け、現在、地域住民や関係団体で構成される街づくり協議会を立上げ、天理駅前広場及びその周辺を活気ある地区にするべく計画を進めている。市民に愛され、内のみならず市外からも集客を集める賑わいの拠点づくりを目指すものである。

## 基本構想の位置づけ



# 1. 基本構想の概要

## 1. 基本構想策定の目的

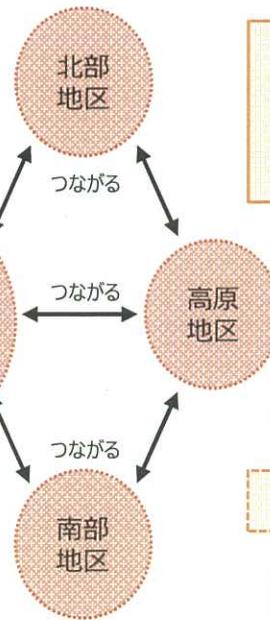
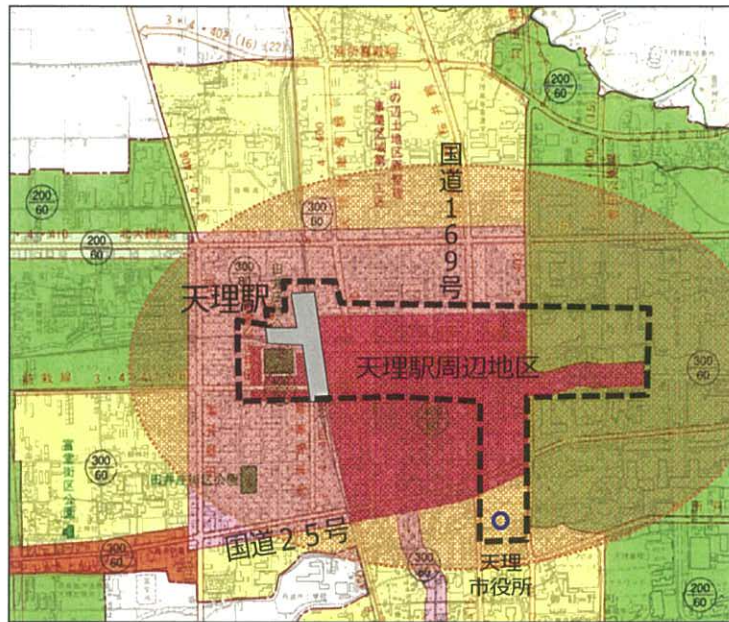
### ◆将来ビジョンの共有

市民・事業者・行政などが協働してまちづくりを推進するため、将来ビジョンを共有する。

### ◆まちづくりの実現

地区が抱える課題や長期的な展望を踏まえた総合的な計画を立て、本市の玄関口にふさわしい“にぎわい”を感じるまちづくりを図る。

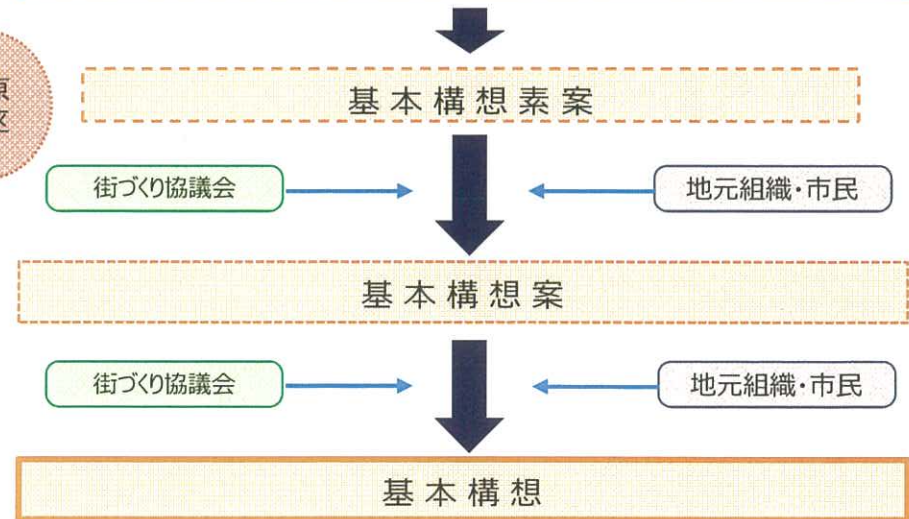
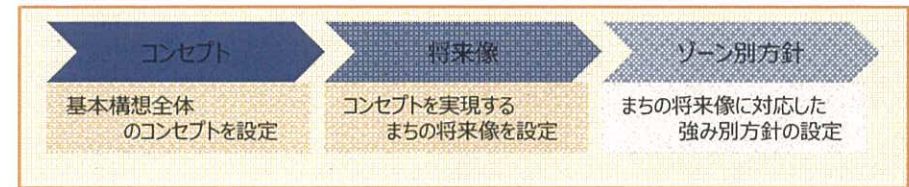
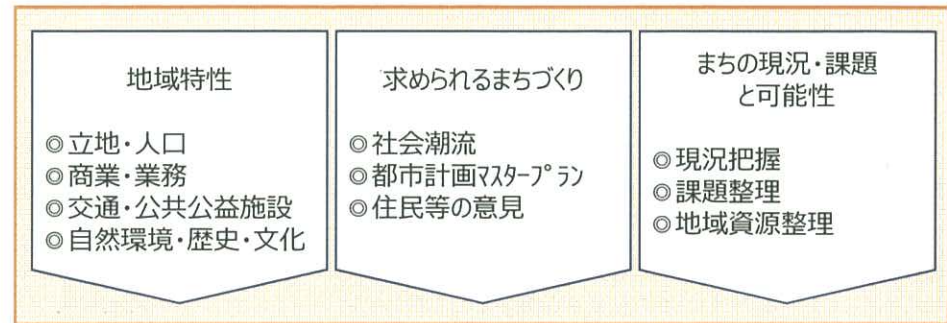
## 2. 対象エリア



市内全域の情報発信拠点として、周遊観光の発着点として、ヒト・モノ・コトを循環させる中心的な役割になる。

## 3. 策定までの流れ

天理駅周辺のにぎわい創出のため、魅力ある公共空間の整備と活用を図る。



## 2. 地区の現状

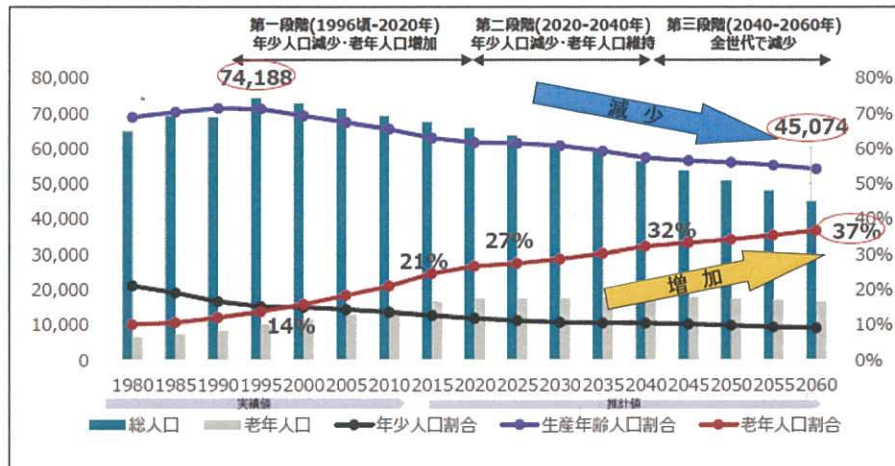
### ○ 天理市全体の人口

天理市内全域では、人口減少が地域経済縮小を呼び、地域経済縮小が人口減少を加速させる「負のスパイラル」に陥りつつある。1995年の74,188人をピークに現在は約67,000人、2040年には人口が56,331人まで減少し、高齢化率も32%に達すると予測。

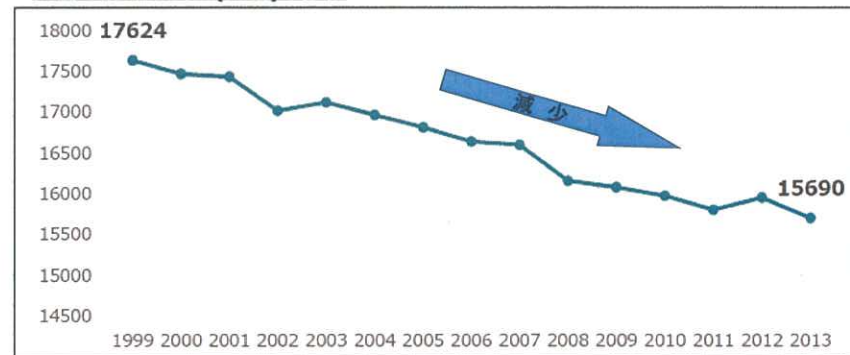
本市の人口減少には「20～40歳代の若者・働き盛り層の流出」が大きな影響を与えており、0.57%と低い有効求人倍率や低い平均所得が示すように、地域で働きたくても思うような仕事がないという状況にある。

また、出産・子育て面では、人口置換水準に満たない出生率のみならず、出産可能年齢人口の減少もあり、出生率を維持するだけでは自然減が止まらない。

#### 本市の人口推移と長期的な見通し

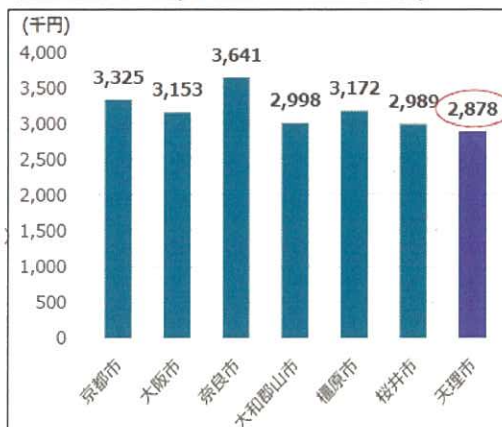


#### 出産可能年齢人口(女性)の推移



・平成27年「天理市 年齢別人口」の数値を引用

#### 平均所得額比較(市町村レベル概算 2013)



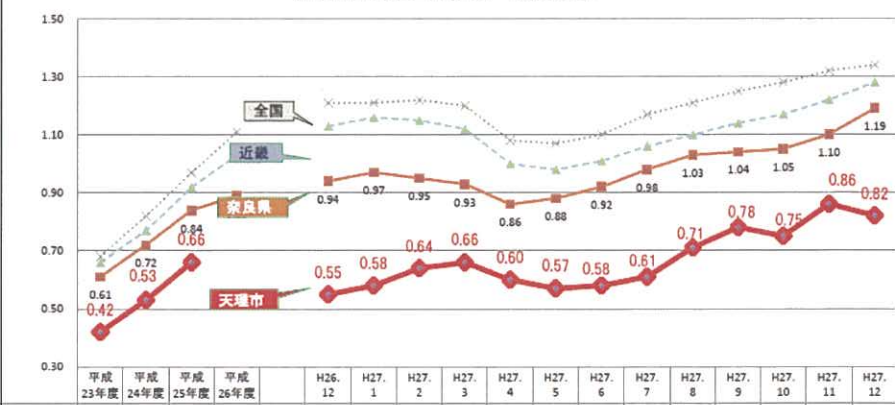
総務省『市町村税課税状況等の調査(1975～2013年)』  
平均所得額(年収推計)は、課税対象所得/納税義務者数(所得割)で概算

#### 1日あたり消費額(日帰り観光客)

(円)	天理市 (H22年度)	奈良県 (H18年度)
交通費	975.4	842.1
宿泊費	-	-
飲食費	863.0	1,109.6
お土産品購入	846.5	1,170.3
その他	592.0	568.5
総額	3,276.9	3,690.5

・「天理市観光ビジョン策定に関する観光客アンケート調査(H22年度)」を基に作成

#### 有効求人倍率の推移(原数値)



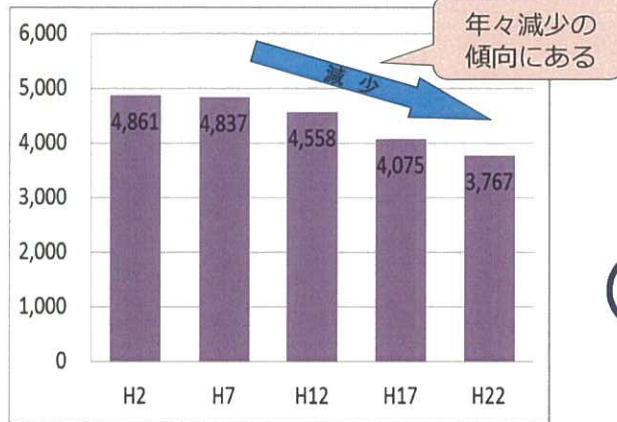
「奈良県労働局 有効求人倍率」を基に作成

## 2. 地区の現状

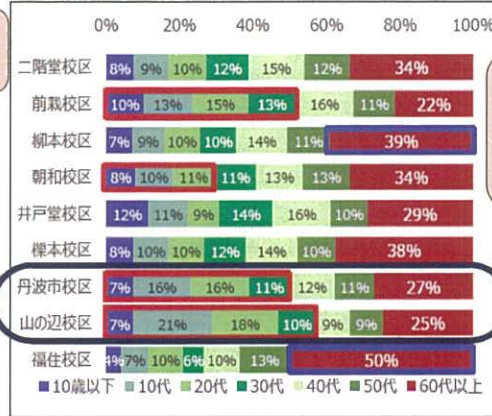
### ○ 地区の人口

- ・ 天理高校や天理大学などの教育機関入学に伴う転入のため、20歳前後の年齢層が厚いが、その後、卒業や就職などによる市外への転出が多く、急激な落ち込みを示している。雇用条件・通勤利便性などの違いが市外での就職に影響を与えている可能性が考えられる。
- ・ 駅前周辺地区を含む川原城町および三島町の人口推移も、緩やかではあるが年々減少傾向となっている。

天理駅前地区（川原城町及び三島町）の人口推移



9校区別年代別人口

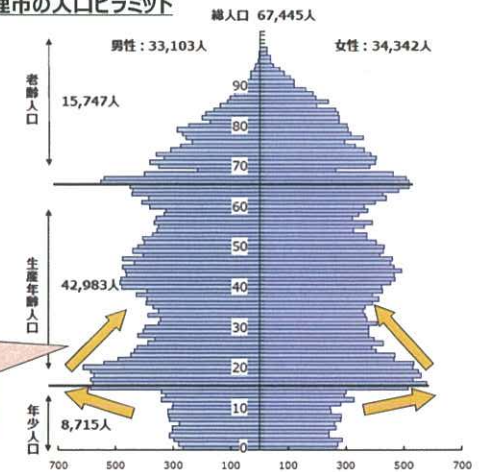


他校区に比べると30代までの若い層が多く、約4割を占める

10代前半～20代後半の急激な転入・転出が多い

・「天理市 町別年齢別人口(H27.6)」資料を基に作成

天理市の人口ピラミッド



### ○ 立地の状況

- ・ 奈良盆地の中央東部に位置する天理市の中心部である。
- ・ J Rと近鉄の天理駅が同じ場所にあり、鉄道駅を中心に発展した市街地である。
- ・ 東には上ツ道・山の辺の道、西には中ツ道・下ツ道などの歴史的環境や、豊かな田園風景と遠景の山並み景観などの自然環境にも恵まれている。

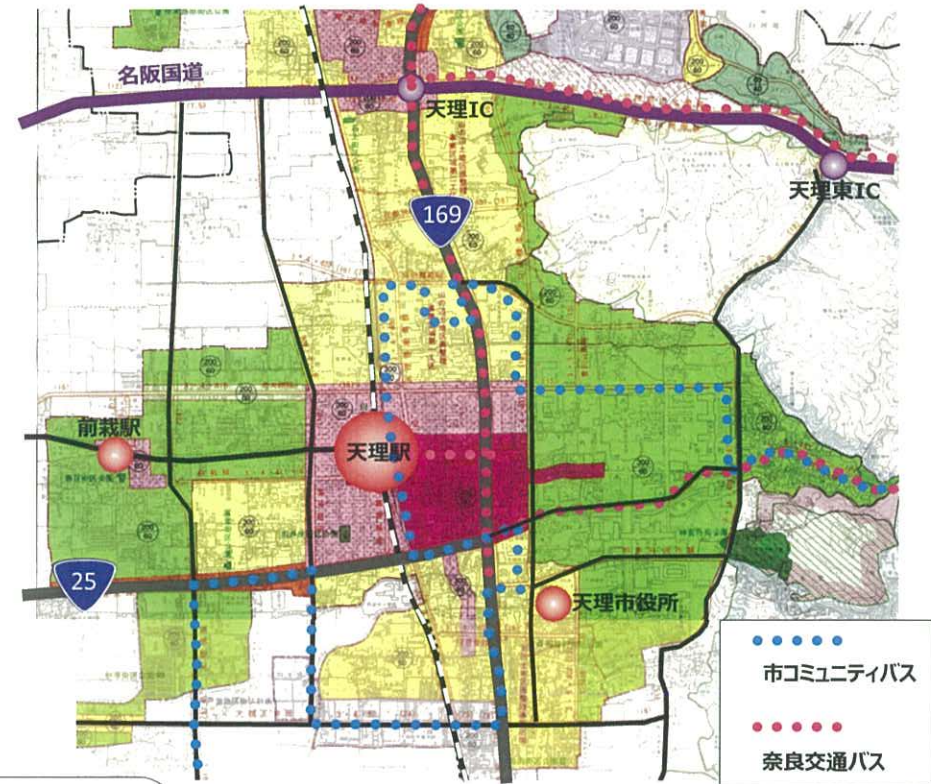
天理市内は、地域のまとまりを考慮して中学校区を基本として4つの地域に区分されている。

- 西中学校地域
- 北中学校地域
- 南中学校地域
- 福住中学校地域



## 2. 地区の現状

### ○ 交通の状況



### ～道路網～

- ・ 天理市域を東西に名阪国道、西名阪自動車道が貫いており、広域的な交通の要衝となっている。また、京奈和自動車道もつながり、広域的な道路網が形成されている。
- ・ 市内には、南北方向に国道169号、東西には国道25号が走っており、主要な幹線道路となっている。

### ～バス～

- ・ 民間交通である奈良交通およびコミュニティバスが天理駅を中心に運行している。
- ・ 国道169号運行路線、天理駅から国道25号を経由し東部の山間部を運行し福住方面まで、また、名阪国道を運行している路線等がある。

### ～鉄道～

- ・ 天理駅はJRと近鉄が同じ場所にあり、どちらも市の主要駅となっている。近鉄天理線が東西に、JR桜井線が南北に通っている。

交通空白地帯の解消のため、天理駅-南西地域の一部、苜原（試験中）を運行。



天理市コミュニティバス  
「いちょう号」

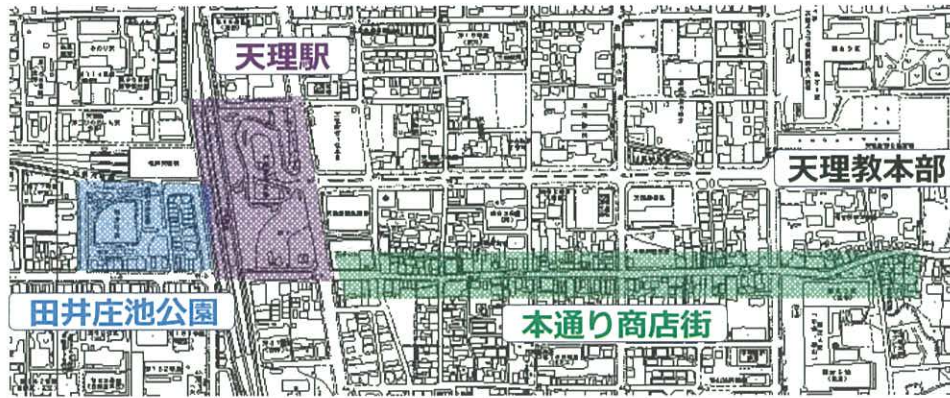
天理市の中心部と東西南北の各エリアを運行区域として、完全予約制で運行する乗合タクシー



天理市デマンドタクシー  
「ぎんなん号」

## 2. 地区の現状

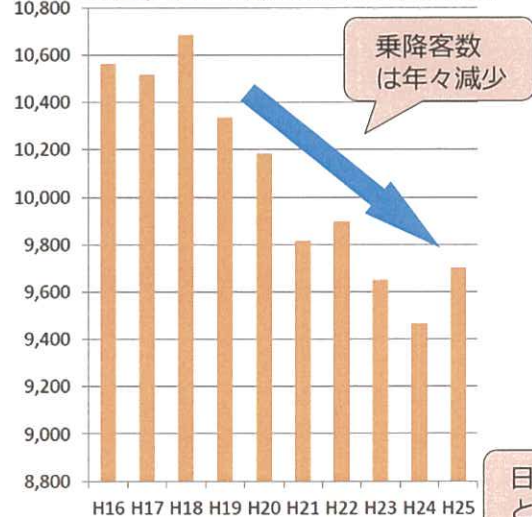
### ○ 天理駅周辺の施設の状況



### 天理駅

- ・ 1日乗降者数が約1万人、JR桜井線と近鉄天理線が乗り入れており、奈良や桜井方面・福住や山添地域へのバスの発着点として利用され、本市の玄関口ともいえる。
- ・ 本市の人口減少に伴い、天理駅の乗客数は年々減少しており、駅前広場はイベント時以外、閑散としている。

天理駅(JR・近鉄)1日乗降客者数



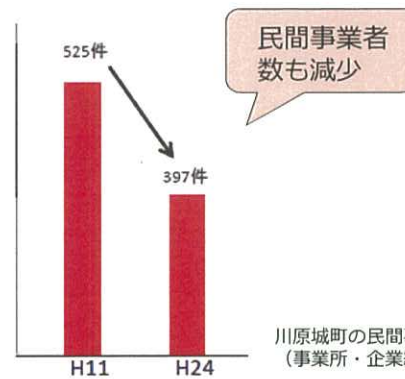
乗降客数は年々減少



日中は閑散とした広場

### 本通り商店街

- ・ 天理駅から天理教本部までの約1kmに及ぶ県内一長いアーケード商店街。数は約180店で飲食店や土産店を中心に神具店や宗教書籍専門店など特徴的な店舗構成をもつ。
- ・ 近年は空き店舗も漸増しており、「市民アンケート」では「商店街の活性化など商業の振興」の満足度は低い。



民間事業者数も減少



空き店舗や営業していない店舗も増加

川原城町の民間事業者数 (事業所・企業統計調査報告書より)

### 田井庄池公園周辺

- ・ 天理駅の西側に広がる近隣公園。
- ・ 子供用遊具と広場、農業用水用の池の他、D51の展示がされている。
- ・ 近年、治安への不安や池における事故、駅の東側との不連続性から人の流れが少なくなっている。



水辺に近づく人が少ないが、春には桜が咲き景色も良い。



フェンスに囲われており近づけない

### 3. 地区の課題整理

#### ◎ 観光や農・ものづくり資源のPR機能、案内サインが不足している

- ・ 市の玄関口にも関わらず、観光情報発信機能は弱く、地域の農やものづくりの発信機能は一過性のイベントにとどまっている。また人の誘導機能が欠けている。
- ・ 周辺地区においても、新たに人を呼び込む取組体勢がなっていない。

#### ◎ 駅前広場が活きていない

- ・ 駅前広場全体には魅力がないため、イベント時を除いて人が「通過」するだけの場所となっている。
- ・ 鉄道駅を利用する来街者の減少によりかつては「効率的な広大でフラットな空間」であったが現状は「閑散としたただっぴろい空間」へと変質している。

#### ◎ 天理本通り商店街の賑わいが不足している

- ・ 商店街の空き店舗の増加による商業地域である当該地区における地域経済の縮小がみられる。
- ・ 駅前広場との連携も少なく、集客力や認知度が低い。

#### ◎ 各エリアの魅力創出、エリア間のつながりがない

- ・ 駅前周辺地区内の魅力の創出、発信が少ない。
- ・ 西の公園、天理駅前広場、天理本通り（アーケード商店街）を結ぶ導線が、道路およびJRによって分断されているため、人の往来がしにくい。

#### ◎ 雇用機能が少ない

- ・ 市内の中心地であるにも関わらず、雇用機能が少なく、若者や働き盛り層の市外への流出が多い。

#### ◎ 子供を産み、育てる環境、支援が充実していない

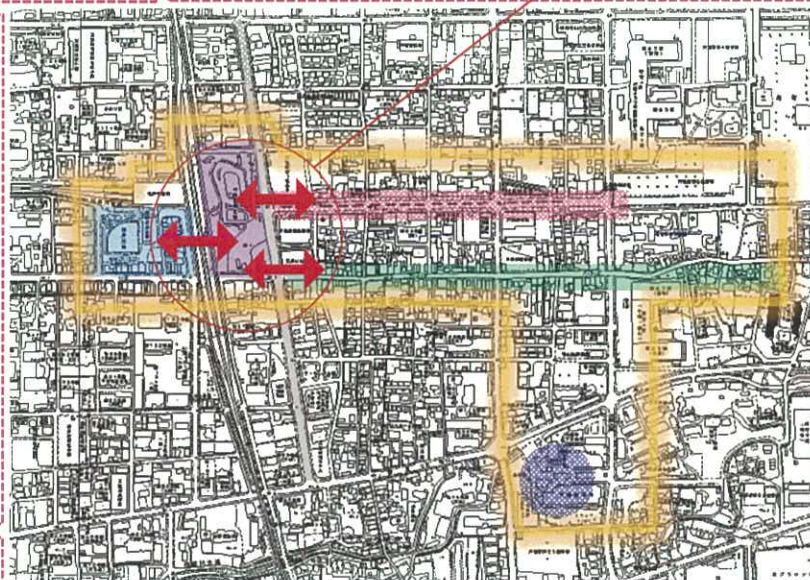
- ・ 子育て窓口が点在している等、出産・子育て面で充実した支援がなく、出生率および子供を産む女性の減少による出生数の低下を招いている。

#### ◎ 地域間、拠点間のスムーズな回遊・連携ができない

- ・ 様々な交通機能の結節点ではあるが、住民や観光客にとってまちづくりの拠点間を巡るネットワークが不十分である。

#### ◎ 高齢化を見据えた駅前環境に乏しい

- ・ 今後ますます進む高齢化を見据えて、高齢者が安心して暮らしやすい環境が必要。
- ・ 天理市の中心地である駅前周辺に市民の健康づくりのための拠点がない。



市の玄関口である  
天理駅を中心とした  
活性化が必要



## 4. 課題を踏まえた取組方針

### － 地区の課題 －

観光や農・ものづくり資源のPR  
機能、案内サインの不足

駅前広場が活きていない

天理本通り商店街の賑わい不足

各エリアの魅力創出、  
エリア間のつながりがない

地域間、拠点間の  
スムーズな回遊・連携ができない

雇用機能が少なく、  
市外への流出が多い

出産、子育て環境の  
支援が充実していない

高齢化を見据えた  
駅前環境に乏しい



### － 課題を踏まえた方針 －

\* 天理のもつ観光・農・  
ものづくり資源を情報発信

\* 天理駅周辺における魅力づくり

\* 垣根を越えた結び付き・連携の強化

\* 雇用の場の確保による  
「天理で働きたい人」の創出

\* 安心して出産・子育てが  
できる環境づくり

\* 高齢者が安心して、  
健康に暮らせる環境づくり

「市の玄関口」である天理駅を中心とした活性化へつながる

## 5. まちづくりのコンセプト・基本方針

まちづくりの  
コンセプト

天理駅を最大限に活かした賑わいの創出  
～ 天理市 × 周辺市町村の賑わい循環の拠点づくり～

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・

### \* 天理駅周辺における魅力づくり

- > 産業・文化発信、周遊観光など「地域のにぎわい拠点」としての機能強化。
- > 県内一長いアーケード商店街の活性化。
- > 市民参加の場として道路空間の活用。
- > 集いの場、憩いの場としての公園の活用。

### \* 天理のもつ観光・農・ものづくり資源の情報発信

- > 町の魅力をPRする多彩なイベントによる観光・農・ものづくりの情報発信の強化。
- > 地域の特色を活かした観光・農・ものづくり資源のブランディングによる物産品等の情報発信の強化。

### \* 垣根を越えた結び付き・連携の強化

- > 市の玄関口としてまちづくりの拠点間を結ぶ交通ネットワークの形成。
- > コミュニティバスやサイクリング等の移動手段の多様化。
- > 大学や関係団体、地域住民などと連携した取組の充実。
- > エリア間の回遊性を向上。

### \* 雇用の場の確保により「天理で働きたい人」の創出

- > 「テレワーク」等「時間」と「場所」にとらわれない新しい働き方の導入。
- > 多様な就労環境・人材マッチングなどによる雇用促進。

### \* 安心して出産・子育てができる環境づくり

- > 出産や子育てにかかる不安や負担を軽減できる支援の充実。

### \* 高齢者が安心して、健康に暮らせる環境づくり

- > 高齢者が利用できる健康づくりの場の創出。
- > 高齢者に優しい環境づくり。
- > 地域の健康づくり拠点へのアクセス強化による、高齢者が健康づくり・介護予防に取り組める環境創出。

## 6. まちづくり構想図（広域）

- \* 駅前広場の賑わい創出
  - ・駅前広場リニューアル整備
  - ・団体待合室を観光発信施設として整備
  - ・交通ターミナルを再整備

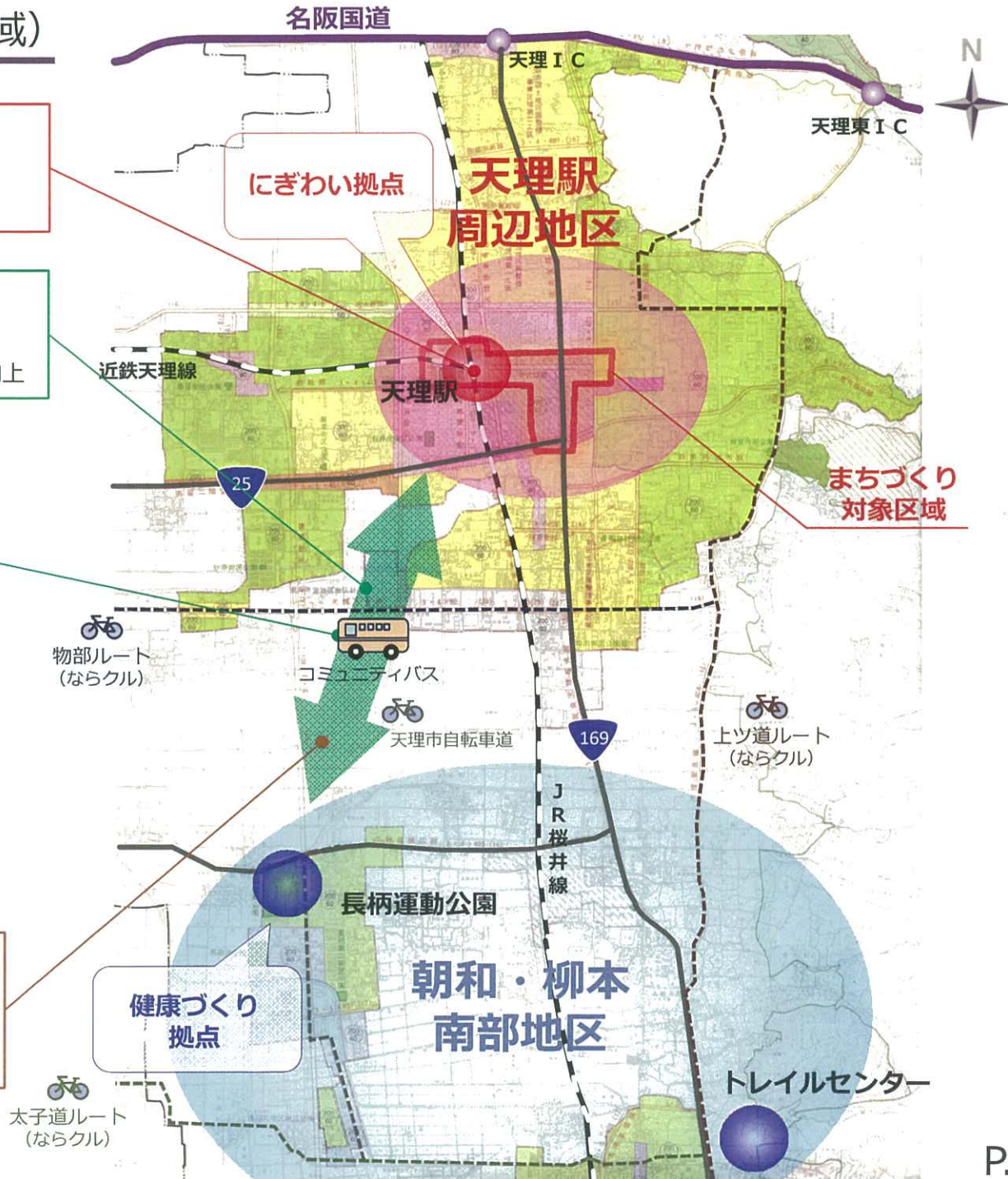
- \* 交通ネットワークの形成
  - ・九条バイパスの整備による健康づくり拠点との回遊性向上

- \* 移動手段の多様化
  - ・拠点間のコミュニティバスの運行による交通アクセスの利便性向上
  - ・ならまほろばサイクリングと連携し、自転車ルートを設定



天理市コミュニティバス「いちよう号」

- \* 地域の健康づくり拠点へのアクセス強化
  - ・健康づくり拠点である長柄運動公園と天理駅のつながり強化



## 6. まちづくり構想図（詳細）

